

第4回 気仙沼市新庁舎建設基本構想策定有識者会議

議 事 要 旨

報告事項

(1) 第3回有識者会議の議事要旨とその対応について【報告1】

- ・ 内容は配布資料のとおりであり，説明は省略した。

議事要旨

(1) 会議の公開・非公開・議事録の作成について

- ・ 本会議及び議事録については，市情報公開条例に基づき公開とすることで了承を得た。
- ・ 第4回有識者会議の議事録については，丸谷委員長と春日委員の署名とする。

(2) 基本理念・基本方針の再整理について

カテゴリ	No	意見等	市当局より
庁舎位置の基本方針 「1 市民が利用しやすい位置」について	1	・ 「(2) 徒歩でも行きやすい高低差の少ない位置」について，内部だけバリアフリーでも意味がないですという意図なので，少し表現を和らげていただいたほうがいい。 (丸谷委員長)	—
庁舎位置の基本方針 「2 防災上の安全性が高く，連携が図れる位置」について	2	・ 防災が2番目に来たというのは高く評価したい。市民の利便性が優先順位の上位に来て当然。 (小野寺(有)委員)	—
庁舎位置の基本方針 「3 市全体のまちづくりを考慮した位置」について	3	・ まちの骨格，構造を変えてまでも移転するのか。単純に都市計画の計画図や復興計画の絵姿だけではなく，まちの構造に及ぼす影響をきちんと考慮すべきではないか。 ・ このことが，「3 市全体のまちづくりを考慮した位置」の(1)と(2)に含まれている。 (菅原委員)	事務局としてもそのように考えております。
	4	・ 現況の周辺の地域の資料というのがない。今一番賑わっているのはどこか，今一番経済的に人の動きがあるのはどこかといった資料がないと，地図上だけではよく分からない。 (丸谷委員長)	歴史的なまちの拡大の様子や施設位置の移り変わりや，内湾地区の整備事業により事業所などの復旧等の状況を示す方法を検討します。(市長)

	5	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼公園に市役所が移転した際、どのようなまちづくりを展開していくのか。 (丸谷委員長) 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・復興を見据えた新しいまちづくりといっても、沿岸部以外のまちの将来性等は、この委員会でいつのタイミングでそれを踏まえた議論ができるのか。 (丸谷委員長) 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地方都市の場合は、市の庁舎の位置によって構造が変わりかねないところがある。経済活動や住環境などの変化について、本来は明確になっていて、それが比較できるようにになれば一番いい。 (菅原委員) 	
庁舎位置の基本方針 「4事業の経済性や事業期間を考慮した位置」について	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「(3)将来の建て替え整備も考慮した位置」について、将来、市の中心部が移ることを見越して考えろというような意味なのか、それとも、将来的にもっと災害に強くなることを考えろという意味なのか。 (丸谷委員長) 	面積を広く確保できることにより、同じ位置で将来、建て替えられるといったことを想定しています。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「(3)将来の建て替え整備も考慮した位置」について、非常に長期的な視点のため市民が判断しにくいのではないか。 (矢口委員) 	—
庁舎機能・性能の基本方針「コスト」について	10	<ul style="list-style-type: none"> ・コストを抑える工夫をしながら、必要最小限に留めていくという方法もあるのではないかと。規模に関する経済性の項目は必要ではないかと。 (菅原委員) 	庁舎の規模については、5つの基本方針を網羅できる規模として、前回の会議で、庁舎の延べ床面積と面積として1万1,000平米から1万2,000平米という想定を提示いたしました。その中には、現庁舎にはない、少し余裕のスペースというものが600平米ぐらい入れたという形になっています。その面積について、では本当に十分なのかという疑問はあると思います。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理の話であれば、4(4)のライフサイクルコストの部分のわかりやすい表現にして記載するのが望ましい。 (峯浦副委員長) 	本市の場合は、取りあえず600平米と見積もった上で、やがて人口減少や、事務のICT化による職員の削減等によってスペースが生まれた際、シンボリックなスペースに活用するなど、好ましい形になって行くことを考えています。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の経済性という言葉に相当するような方針を、機能のほうにも何かしら入れたほうが良いのではないかと。 ・ライフサイクルコストやメンテナンスコストだけでなく、建設コストにある程度制約があるというように書いたほうが良いのではないかと。 (丸谷委員長) 	今、国全体で進めている公共施設管理計画では、将来的に人口が減少する中で、複数の機能を1つの建物に持っていくなどして経費の削減を図ることが大きな命題になっています。将来的に、新市役所へ多様な機能が入ってくるということはあるかと考えております。(市長)

庁舎機能・性能の基本方針「5機能的で効率的な行政機能等を実現する庁舎」について	13	<ul style="list-style-type: none"> ・「(1)執務室のオープンフロア方式と適正管理」について、組織改変や人員配置に柔軟に対応できるようにオープンフロアにするんだろうと思うので、「柔軟に使えるようなフロア方式」というのを入れれば良いと思う。 (峯浦副委員長) 	<p>関連して、(7)番執務室のセキュリティ対策については、市役所として重要だと考えています。セキュリティをしっかりとすることと同時に、市役所なので、閉ざされた空間であってはいけない。それらが両立するような機能が欲しいという思いがあります。(市長)</p>
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・「(3)多様な用途に対応した会議・打合せスペースを確保」について、避難場所等いろんなスペースが空いてきた時に用途を転用する思想だと思うので、「柔軟に機能を転換できるようなスペースの取り方」のような表現を加えてはどうか。 (峯浦副委員長) 	
庁舎機能・性能の基本方針「気仙沼らしさ」について	15	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼らしさ、気仙沼の風土を反映するような一文があっても良いのではないか。 (矢口委員) 	<p>各委員へのヒアリングの報告により、峯浦副委員長より食堂機能について話がありました。例えば一般的に業者に委託することにより、地元の食材を使用した食産業の振興や、企業の足掛かりとして、というようなお話がありました。市役所が、事務機能だけではない役割も果たしていけるような仕掛けがあって良いのではないかという意味だと理解している。 気仙沼らしさや象徴性というようなことの並びの中で、事務局として、何らかの検討ができればと思います。(市長)</p>
	16	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の見た目は、どのくらい重要視されるのか。市役所の象徴性や地域性も大事ではないか。 (丸谷委員長) 	
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生など若い人のご意見を取り入れたほうが良い。 (遠藤委員) 	
議長まとめ	18	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には今日原案に、今まで出た意見で、抜本的な修正はないが、副委員長から意見があった6ページの精査をされたほうが良い。(丸谷委員長) ・基本方針なので、方針が分かったほうがよく、何のためにというようなことが分かるような趣旨を書いていただいたほうが分かりやすい部分があると思うので、ご検討いただきたい。 (丸谷委員長) 	—

(3) 建設可能地の抽出について

カテゴリ	No	意見等	市当局より
抽出表について	1	<ul style="list-style-type: none"> なぜ1ha以上にしたのか、記載しておいたほうが良い。 (峯浦副委員長) 	—
反松公園について	2	<ul style="list-style-type: none"> 人口重心5キロ圏内というよりも、本来は、選定でどこまで中心部から遠くへ行っていいのかというような話があるのではないのか。 反松公園については、区画整理の減歩だからというお話があったが、まちの中心部でいいのかという議論があるのか。 反松公園が中心部から離れている、離れていないのような感覚がお住いの方々にあるのであれば、ご説明いただきたい。 (丸谷委員長) 	<p>気仙沼市は発展をして、1980年、昭和55年に人口の最大ピークを迎えています。現在39年が経過し、市街地を拡大させていいのかという思いがある。また、本市においては高齢化が進んでいるのにもかかわらず、今回の復興まちづくりにおいては、何かの施設を集約するという事はできなかった。一方で、国道45号の北側は合併した唐桑町に、南側は合併した本吉町につながっているという事実もあるので、いったんはここに入れさせていただいたというような思いであります。(市長)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 反松公園は利用頻度が少ないというご意見があったが、憩いの場として地域が利用しているといった話も聞いた。合意形成のための時間を考えると、難しいのではと思う。 (遠藤委員) 	<p>反松公園の利用頻度、利用者数について、震災前ですが、平成22年度の件数が132件、人数的には3,676名の方がご利用していました。これはあくまで申請された件数ですので、申請以外の方のご利用もあると捉えています。</p>
議長まとめ	4	<ul style="list-style-type: none"> 現位置、旧市立病院跡地、気仙沼公園の3つが委員会の中で選ばれた候補地と決定した。 (丸谷委員長) 	—

(4) 候補地を選定する評価項目の検討

カテゴリ	No	意見等	市当局より
まちづくり計画との関係について	1	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画を気仙沼公園だったら周辺をどうする、旧市立病院なら周辺をどうするといった考え方の説明や用途変更の考え方があれば良い。 (丸谷委員長) 	—
	2	<ul style="list-style-type: none"> 市役所が現位置にないと成り立たない計画がどれだけあるのかを正確に整理が必要。 (丸谷委員長) 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> 根本的には、この気仙沼市の構造をどうしていくのかということ、きちんと考えるべき。 市役所の位置がどこであっても、自分たちはその場所で作っていくんだという考え方もある。 一方で、まちなか再生計画は、市役所は、意識的な部分だが、ここにあるものだということを前提に作っている。 (菅原委員) 	

(5) 意見聴取・評価方法の検討

カテゴリ	No	意見等	市当局より
アンケート調査の回答の仕方について	1	・アンケート調査票について、重要性の5段階評価は、ほとんど5か4になるのではないか。 (加藤委員)	—
	2	・重要なものをいくつまで、というように制限がないと評価が難しいのではないか。 (丸谷委員長)	
	3	・合計10点をわりふってください。あるいは、○を3つ入れてください。など工夫する必要がある。 (峯浦副委員長)	
アンケート調査票の内容について	4	・(2)番の周辺地域からの高低差についての表現の仕方は、意見を誘導しているように感じる。 (春日委員)	—
その他資料について	5	・比較評価図を配るのであれば、何を比較しているのかわかるように、情報を盛り込みすぎないほうが良い。何を比較しているのかが分かるような図にしていきたい。 (矢口委員)	—
議長まとめ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の方に聞いたほうがよい間と、専門家に聞くのがよい間がある。本当に市民の方に選んでいただきたい間に絞ったほうが良い。利便性や防災性の価値が、市民の中でどのくらい重要なかという話であれば、大項目レベルの総合判断でも良いのではないか。 ・参加者170人の構成がどうなっているか、ちゃんと評価しないといけない。 ・市民との意見交換会の参加者と傍聴者のアンケートの集計は別にしていただきたい。 (丸谷委員長) 	—

(6) その他

- ・第5回有識者会議は、令和元年の7月7日、日曜日の午後で開催予定。

(15:23 閉会)